

## 企画展 「江戸の滑稽」 —幕末風刺画と大津絵—

### 田河水泡コレクションを中心に

町田市立国際版画美術館 2022.03.12～04.10



「浮世絵」には屈託のない笑いから福德への願い、世の中の不安や不満まで、人々の感情がユーモラスに描き表されたものが数多くある。本展では、漫画『のらくろ』の作者「田河水泡」が収集したコレクションを中心に、当館が所蔵する浮世絵の戯画、風刺画、大津絵など「約140点」を展示し、幕末から明治にわたる激動の時代に、世相を描かずにはいられなかった無数の絵師たちの滑稽表現と、それを享受した民衆の本音を読み解いている。

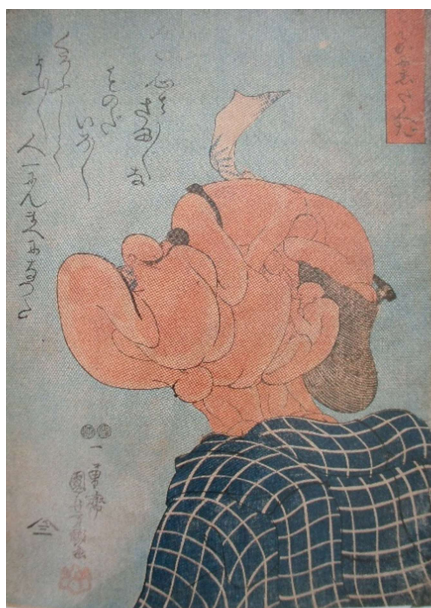
#### <展示構成>

1. 戯画の流行
2. 大鯰（なまず）暴れる
3. 流行り病
4. 大津絵
5. 大津絵と江戸の戯画
6. 幕末動乱と戊申（ぼしん）戦争
7. 明治の戯画

#### <見どころ>

1. 風刺画から大津絵まで創造力溢れる表現が沢山。
2. 国芳、広重、暁斎、芳年、清親ら人気絵師が大終結。
3. 「吉例浮世絵大公開」は桜開花に展示。

歌川国芳 《人をばかにした人だ》 大判錦絵 1847(弘化4)年頃



本作品は、アメリカ漫画の主人公「ポパイ」に似ていることから、筆者は「ポパイ」と呼んでいる。額に貼った紙片を自分の息で飛ばすお座敷芸が描かれた、いわゆる「寄せ絵」といわれる作品である。

「国芳」の初案ではないが、彼が「大判錦絵」として、完成度の高い作品に発展させたものである。左上の文には、「人の心はさまざまなものだ。いろいろくろうして、ようよう人一にんまえになった。」と記載がされている。